

新春鼎談2025

新紙幣肖像の3偉人
3人の精神を次世代へつなぐ

津田梅子ゆかりの
津田塾大学学長

高橋裕子

北里柴三郎ゆかりの
学校法人北里研究所理事長

浅利靖

渋沢栄一ゆかりの
深谷市長

小島進



渋沢栄一と共に新紙幣の肖像となった、津田梅子、北里柴三郎にゆかりのある団体の代表2人と小島市長が、同時代を生き偉人たちについて語りました。

鼎談は栄一の喜寿(77歳)を祝って東京都世田谷区に建設され、平成11年に深谷市へ移築された国指定重要文化財『誠之堂』で行われました。

千円札の肖像

科学の発展に貢献
きたさとしばさぶろう
北里柴三郎
1853(嘉永5)年~1931(昭和6)年

熊本県阿蘇郡小国町出身。細菌学者。熊本医学校、東京大学医学部を卒業後、内務省衛生局に勤務。ドイツに留学し、1886(明治19)年から細菌学者のコッホに師事、1889(明治22)年に世界初の破傷風菌純粋培養に成功した。1891(明治24)年に医学博士となり、1892(明治25)年に帰国後は伝染病研究所長を務めた。研究所の文部省移管に反対して辞職後、1914(大正3)年に北里研究所を創立し、その後は慶應義塾大学部医学科創設にも尽力した。

肖像出典：国立国会図書館『近代日本人の肖像』

5千円札の肖像

女性の教育機会の創出に貢献
つだうめこ
津田梅子
1864(元治1)年~1929(昭和4)年

東京都新宿区南町出身。教育者。父は旧佐倉藩士で後に農学者となった津田仙。1871(明治4)年に日本最初の女子留学生の一人として、満6歳で渡米。約11年にわたり先進的な教育を受け、17歳で帰国。華族女学校教授などを務め、1889(明治22)年に再び米国に留学しプリンマー大学の生物学選科生となる。帰国後、1900(明治33)年に女子英学塾(後の津田塾大学)を創立。個性を重んじたリベラルアーツ教育を提供し、女子高等教育の先駆者となった。

肖像出典：国立国会図書館『近代日本人の肖像』

1万円札の肖像

日本の近代化に貢献
しぶさわえいいち
渋沢栄一
1840(天保11)年~1931(昭和6)年

深谷市血洗島出身。明治・大正期の実業家。農家に生まれる。江戸時代末期、一橋家に仕え、1867(慶応3)年パリ万国博覧会に出席する徳川昭武に随行し、欧州の産業、制度を見聞。1869(明治2)年新政府に出仕し、1872(明治5)年に大蔵大丞となるが翌年退官し実業界に入る。第一国立銀行の総監督、頭取となったほか、多くの企業の創立と発展に尽力した。『論語』を徳育の規範とし『道徳経済合一説』を唱える。実業界引退後も、福祉事業や国際親善に力を注いだ。

肖像出典：国立国会図書館『近代日本人の肖像』

発行日に日本銀行で受け取った新紙幣

小島市長 今日、深谷までお越しただき本当に嬉しく思います。お二人にお会いするのは、新紙幣が発行された(令和6年)7月3日に、日本銀行で行われた若い記番号の新紙幣の贈呈式以来ですね。あのときはどんな感じでしたか。

高橋学長 私は、ちょうど発行されるときに学長であったという巡り合わせに、まずは大きな感謝の気持ちがございます。贈呈式の集合写真を見ると、女性は私だけでした。日本の組織の代表に女性がいないという状況は、津田梅子



津田塾大学 高橋裕子 学長



学校法人北里研究所 浅利靖 理事長

や渋沢翁が目指していた世界ではありません。まだまだ日本は変わっていかなくてはならないと、強く思いました。

浅利理事長 本物のきれいなお札(千円札)をいただきたい、非常に気持ちが高まりました。その後、北里先生の墓前に報告して、研究所に持って帰ると、みんなが喜びました。『千円札が我々にとっては1万円価値がある』という気持ちになりました。

新紙幣発行の盛り上がりを一過性にしない

小島市長 深谷市は、平成31年4月に財務省が新紙幣発行を発表す



深谷市長 小島進

る前から、子どもたちの教育に渋沢栄一翁の生き方にふれる『こころざし読本』という副読本を作るなど、栄一翁を顕彰してきました。また、新紙幣の発行当日に福澤諭吉先生の故郷である大分県中津市長と、『千円札引継式』を行って、新紙幣が縁で栄一翁とゆかりのある自治体や団体と連携し、さまざまに取組みを行ってきました。お二人の大学、研究所も同様だと思いますが、紙幣の肖像として大注目浴びた中で今後に向けてお考えになっていくことはありますか。

高橋学長 津田塾大学では、津田梅子が自分の後継者、次世代の女性リーダーを育成することを考えていたので、その精神を学生たちに学んでほしいという思いがあります。今回、弟子とハトンタッチしたので、これを機会に、ただお札で顔を見たというだけでなく、北里先生という人はどのような人なのか、特に本学の学生にその精神を引き継がせたいですね。例えば、開拓の精神や不屈の精神。これは学生にとっては社会に出て生きていく上で、壁に当たったときに、思い出すだけで頑張れるものだと思います。

栄一翁と2人の偉人の交流

小島市長 同じ時代を生きた偉人の3人ですが、津田先生、北里先生は栄一翁とどのような関わりが



あったのでしょうか。

浅利理事長 北里先生は医学の面から、渋沢先生は経済の面から日本を良くしようと考えていました。北里先生はドイツで学んできて、日本で初めて結核療養所をつくり、福澤諭吉先生が支援した。当時、日本では結核が一番怖い病気でしたので、渋沢先生も支援をされて、その結果、日本結核予防協会を北里先生と共に創立しました。今日、深谷に来て分かった共通点は、津田先生もそうだと思いますが、『若いうちから学問を学んで、親の教育がしっかりしていた』と3人が共通ですね。

高橋学長 津田塾大学の10周年記念式典で渋沢翁は、『明治維新により江戸時代の身分制度が廃止されて、商工業者が地位を高めたのと同じように、女性もその責任を果たし、業績を向上していった』と賞状を授けられた。地位を上げることができたのだ、と3人が共通な話をされていました。小島市長 女学生たちの前でそのような話をしたわけですね。高橋学長 『商工業者が自ら卑下してはならない。私たちがもてるべき手前の前で演説するようになった。だから

ら、商工業者がその地位を高めたのと同様に、女性の地位も上がっていく』と、自分自身を引き合いに出して述べているんですね。そのような話を学生の前にしているというのが、非常に印象的です。

偉人たちの素顔

小島市長 今日、お二人に見ていただいた旧渋沢邸『中の家』で、3月には将棋の『王将戦』が行われます。栄一翁は将棋が好きで、福澤諭吉先生とも将棋を指したというエピソードがあります。もっとも、指す時間が取れないため、心を制してやめてしまったそうです。北里先生や津田先生は、普段どのような生活を送っていたのでしょうか。

浅利理事長 人間性が表れているものとしては、『雷おやじ』とてもいいですが、弟子を叱るときは結構激しかったんですね。部屋に呼ばれた弟子が、叱られて一歩ずつ下がっても、それを追いかけて叱りつめたというエピソードが残っています。でも、それと同時に、その裏にとても深い、弟子に対する愛情

りもありました。

偉人が現代に生きていたら何を思い、伝えるか

小島市長 お酒も飲まれたんですね。津田先生のお正月はどうだったのでしょうか。高橋学長 津田梅子は17歳で帰国後、アメリカのホストマザーに宛てた手紙に、日本ではお正月にお年玉をたくさんあげなければいけないと書いています。しかし、帰国後で仕事を得られていなかったため、お年玉を用意するために、何か記事を書いて送るから原稿料を送ってくれないかというやりと

小島市長 栄一翁は、豊かな社会を目指していました。それは、お金持ちをたくさんつくることだけでなく、社会全体が豊かになること、道徳で倒れている人がいるような国は豊かとは言えないということなんですね。女性の社会進出も然り、栄一翁が目指していた社会はまさにSDGsなんですね。もし津田先生、北里先生が今いらっしゃったら、何を考え、何と言ったでしょうか。高橋学長 卒業していく次世代の若者たちに津田梅子は、『人生を船が進んでいく航路に例えたら、その船がいくつもあり、その船の光をしっかりと見なければならぬ。その船とは、一つは愛であり、一つは言葉であり、もう一つは献身である。そして有意義な人になれ』と語っています。社会貢献をするような人になってほしいというところを言っているんですね。そこは渋沢翁と非常に重なる部分

学校法人津田塾大学

『女性の地位向上』を目指し、津田梅子が創立。その建学の精神は125年以上にわたり、受け継がれている。高度な語学力と深い専門知識を養うための学びを追求し、幅広い国際的視野、高いコミュニケーション能力を身に付けた卒業生は、国内外のさまざまな分野で活躍している。

学校法人北里研究所・北里大学

北里研究所の創立者であり、北里大学の学祖である北里柴三郎の精神にのっとり『開拓』『報恩』『叡智と実践』『不撓不屈』を建学の精神とし、生命科学の総合大学として教育、研究、医療の分野で社会に貢献し続けている。

を持っていたんですね。失敗した弟子を叱っても、外に対してはすべてを自分の責任としていました。失敗した本人たちを表に出さないんですね。だから、弟子はみんな慕っていました。

小島市長 私がいつも思うのは、栄一翁が一人で500もの会社をつくれる訳はなくて、それは、いろんな人との出会いや関わりがあったというところですね。北里先生の場合もまさにそうですね。多くの人に慕われていたということですね。高橋学長 津田梅子も学生には大変厳しかったと思いますが、学生たちが卒業して、教員になっていっ

あると思っています。

現代の若者に対して、『真実を見極められる力を持ち、多くの人々に献身できる心』を、深さ、大きさを持って、社会に有意義な生き方をすれば、女性たちも自分の人生が暗礁に乗り上げたりすることがないですよ、と言っています。

小島市長 なるほど。北里先生は今いたらのような見方で、どのようなことをおっしゃったのでしょうか。おっしゃる満足していませんよね。

浅利理事長 そうですね。多分、雷がしょっちゅう落ちていたんじゃないかという気がしますけど。あの時代からすると、医学だけを見ればだいぶ進歩していますが、もっと進歩できるはずだ。だからもっと努力せよ。『この時代で良かったね』とは決しておっしゃらずに、『そんなくらいじゃあかんをかいこるんじゃない』と言っているんですね。

深谷市民の皆さんへメッセージ

小島市長 最後に、深谷市民の皆さんへ一言だけお伝えします。浅利理事長 渋沢先生がどのよう

た所を日本地図に印をつけて、卒業生が全国で活躍する様子を楽しみに見ていたそうです。また、アメリカのホストマザーは、『津田梅子はいったん言い出したら間かないところがある。で手に負えない』というような言葉を残しています。

小島市長 栄一翁もそうですが、お二人のエピソードからも、強い意志と信念のある人柄がうかがえますね。浅利理事長 普段は厳しい北里先生ですが、元日に研究所の人たちみんなを集めてお酒を飲んだときに、頬を赤くしながら、数の子を食べていたという記録が残ってい

な環境でひたひた生きてきたか、それをこの地域の皆さんは知ることができて、それを吸収することもできます。これは他の市町村とは違う強みになると思います。特にこれから、渋沢先生のやってこられたことを次の世代に伝えていただくことが、やらなる発展のためには重要だと思います。

高橋学長 渋沢翁は人間の基盤がつくれる幼少期に両親から、そして、この尾高博忠から、非常に重要なことを学ばれた。そのようなコミュニケーションが、この深谷という街にあるということは、非常に誇るべきことです。深谷市民の皆さんは、このような所から日本の未来に、世界にインパクトを与えた偉人を輩出したというところをぜひ心に刻んでいただきたいと思っています。

小島市長 お話を聞いて3偉人の共通するところがたくさんあると感じました。これからもさまざまな形で連携させていただきたいと思っています。本当に今日はありがとうございました。

高橋学長・浅利理事長 ありがとうございます。



▲渋沢栄一記念館の渋沢栄一アンドロイドと一緒に『栄一ポーズ』